

令和3年度 専門部会活動報告

部会	生活支援部会	就労支援部会	こども部会	居住福祉部会
部会メンバー	<ul style="list-style-type: none"> <li>●構成人員 6名（事務局を除く）</li> <li>・相談支援事業所：柿の木、豊正園、グリーン工房</li> <li>・移動支援をテーマにした際に招集</li> <li>→社旗福祉協議会</li> <li>行政：企画調整課、地域包括支援センター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●構成人員 9名（事務局を除く）</li> <li>・教育関係：宇和特別支援学校進路課</li> <li>・就労関係：ハローワーク、きら、八つ鹿工房、多機能型支援事業所よしだ</li> <li>・相談支援事業所：豊正園・南愛媛療育センター・はーと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●構成人員 9名（事務局を除く）</li> <li>・児童発達支援事業所：あけぼの園、Aile学舎和霊教室</li> <li>・相談支援事業所：南愛媛療育センター、柿の木、あえる</li> <li>・親の会：こころ根っこ・ゆうきの会</li> <li>・教育：学校教育課</li> <li>・行政：保険健康課、福祉課（子育て支援係）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●構成人員 10名（事務局を除く）</li> <li>・相談支援事業所：八つ鹿工房、あいか、柿の木</li> <li>・居住支援等をテーマにした際に招集</li> <li>→宅建業者、社会福祉協議会</li> <li>行政：建築住宅課、保護課、地域包括支援センター</li> <li>・精神障がい者の地域移行等をテーマにした際に招集（3名）</li> <li>→公益財団法人正光会宇和島病院 行政：宇和島保健所</li> </ul>
取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>●部会開催</li> <li>第1回(6/16) ・障がい者の移動問題・災害啓発活動</li> <li>第2回(8/3) ・移動問題対策に向けた情報共有</li> <li>第3回(9/29) ・同上</li> <li>第4回(11/15) ・各分野における移動支援の課題と取り組み共有・意見交換、災害啓発活動について</li> <li>第5回(12/15) ・宇和島市社会福祉協議会における取り組み状況</li> <li>第6回(R4/1/31) 延期…2月書面会議開催</li> <li>・障がい者の移動問題の今後の取り組み・方向性</li> <li>●障がい者の移動問題について</li> <li>・県下及び先進地域の取り組みや市社会福祉協議会の取り組み（買い物代行）宇和島地域のフォーマル・インフォーマル（デマンドタクシー等）な交通社会資源はないか部会委員で情報収集・意見交換を行う。</li> <li>・市企画情報課企画係、地域包括支援センター、社会福祉協議会の方々を招集し、移動支援等生活活動をテーマに、現状・問題課題等情報・意見交換し、実情把握に努めた。</li> <li>●防災啓発活動について</li> <li>・昨年度同様、自助の啓発を中心に市の防災の取り組みの周知・拡大を目指し、地道に防災啓発活動の継続していくことを目標にした。具体的には、昨年度同様に防災対応の手引きを用い、個別で考えてもらう機会としたり、調整会で各相談支援専門員に協力を依頼し、避難情報の関するガイドライン（内閣府防災担当・消防庁）改訂について、周知に努めた。</li> <li>・今後も相談支援時等に、防災に対する話をして実情・悩みを聴取し防災への意識啓発を行っていくことの重要性を確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●部会開催</li> <li>第1回(7/27)</li> <li>・活動方針及び活動計画の確認</li> <li>・就労アセスメントの申請状況</li> <li>・「合同説明会inなんよ」の報告と反省</li> <li>・就労移行支援事業所の現状と課題</li> <li>第2回(9/27)</li> <li>・就労アセスメントの実施状況</li> <li>・就労移行支援事業所のサービス提供状況及び支援経過</li> <li>・「合同説明会inなんよ」のアンケート結果</li> <li>・障害者就業・生活支援センターとの連携</li> <li>第3回(11/29)</li> <li>・宇和特別支援学校の進路状況及び就労についての学習会の報告</li> <li>・就労移行支援事業所の現状と課題</li> <li>・就労定着支援の利用状況と課題</li> <li>第4回(新型コロナウイルスの感染対策による書面開催)</li> <li>・宇和特別支援学校の進路状況</li> <li>・外国籍を有する方の就労について（情報提供）</li> <li>・令和3年度の反省とまとめ</li> <li>●その他の活動</li> <li>・就労アセスメント調整会議（特別支援学校・就労移行支援事業所・相談支援事業所）</li> <li>・宇和特別支援学校の進路状況の確認</li> <li>・mini合同説明会in宇和島の結果報告</li> <li>・就労A型事業所の賃金について（最低賃金除外申請の条件等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●部会開催</li> <li>第1回(6/28)</li> <li>・今年度の活動方針の見直し</li> <li>第2回(8/12)</li> <li>・相談支援業務の中で感じている課題について</li> <li>・他機関との連携・協働について</li> <li>・他機関や支援を受ける方への周知について ⇒課題について具体策を検討</li> <li>第3回(9/30)</li> <li>・相談支援専門員の役割・・・相談支援専門員とは？</li> <li>・相談支援専門員紹介のリーフレットの内容検討</li> <li>第4回(11/15)</li> <li>・「福祉サービスを利用する紹介リーフレット」「相談支援専門員紹介リーフレット」の案を基に意見交換、内容の修正・検討</li> <li>・リーフレットの活用方法について検討</li> <li>第5回(2/7) 書面開催</li> <li>・リレーファイルの活用等について活用状況等</li> <li>・医療的ケア児等支援の現状</li> <li>・次年度の取り組みについて</li> <li>活動方針①について</li> <li>・相談支援専門員の役割（どこまで相談支援専門員が介入するのか？）の課題を抽出。保護者や保育・教育機関等が分かりやすい相談支援専門員の役割を周知する資料を作成することとし、紙面化に向けて検討を重ねた。</li> <li>活動方針②について</li> <li>・相談支援専門員以外の部会員との部会を開催してリレーファイルの活用について現状把握をする予定だったがコロナで開催できず、書面にて現状報告を実施。</li> <li>活動方針③について</li> <li>・医療的ケア児等支援体制整備に係る現状と次年度の取り組みに関するアンケートを部会委員に実施し、次年度の取り組み課題を把握した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●部会開催</li> <li>第1回(7/21)</li> <li>・今年度の取組について</li> <li>第2回(9/15)</li> <li>・地域の現状共有</li> <li>・昨年度アンケート結果及び居住支援の現状</li> <li>・不動産業者から見る地域の現状</li> <li>第3回(11/7)</li> <li>・部会の位置づけと活動方針、検討主旨説明</li> <li>・居住支援の現状と課題及び各分野での取組について、各分野から活動報告及び意見交換</li> <li>第4回(1/12) 新型コロナウイルス感染拡大のためメールにて検討</li> <li>・正光会宇和島病院医療関係者による講演計画(案)について共有、意見集約</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>●障がい者の移動問題について</li> <li>・マクロな視点での情報収集や各分野の方々と情報交換、意見交換することで、宇和島市の現状や課題が見えてきた。</li> <li>各分野でも移動の問題は地域課題と捉え、問題解決のため会議の機会を持ち、様々な取り組みをしていることがわかった。</li> <li>・障がい者に限らず、様々な地域課題（過疎化、高齢化、単身世帯の増加、地域性、経済的問題、社会資源不足等）により、普通に暮らすことが困難な人達が存在しており、移動支援のニーズはある。</li> <li>〈今後の取り組みの3つのポイント〉</li> <li>①フォーマル・インフォーマルの両面、障がい福祉分野としてもミクロとマクロの視点を持ち、制度の狭間に目を向け障がい者の声が届けられるように協働・参画していく。</li> <li>②障がい福祉分野で実際の公共交通の現場に出向き、見学・体験し、何が不便なのかを知る。</li> <li>③移動関連のフォーマル・インフォーマルな社会資源の情報収集及び可能性を探り、移動問題解決の方法を探る。</li> <li>★どんな移動サービスがあればよいか？</li> <li>①安価②安全・安心③柔軟・臨機応変・機動的④相談しやすいこと</li> <li>●防災啓発活動について</li> <li>・当事者の方々が防災について考える機会につながった。</li> <li>・緊急避難場所や避難所の確認につながった方もおられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も新型コロナウイルスの影響を受け、一般の方や支援者に対する情報発信・障害者雇用を支える取り組みなど、部会としての活動が思うように行かない状況にあった。</li> <li>・しかしながら、こういった外部に出向く機会や参加型の活動が制約された一方で、市内に新設された事業所を部会に招き、障害者の就労移行や定着支援について重点的に意見交換を行い、会の発展と成長につなげることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援専門員と福祉課で、相談支援専門員の役割、福祉サービスの流れについてリーフレットを作成した。</li> <li>宇和島に限らず、どの市町でも活用できる内容とした。</li> <li>・これまでリレーファイルの検討は子ども部会で行なってきたが、2年間の活用状況や課題から、体制整備との関係性を重視する必要性が見えてきたことから、検討の場を「発達支援拠点整備ワーキング部会」に次年度より移行することとした。</li> <li>・医療的ケア児等の支援体制整備については、医療との連携が不可欠であるため、医療機関の参画を依頼する等、子ども部会とは別枠での開催を検討することとなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●居住支援における支援者側からの見解</li> <li>・アンケート結果から、施設よりGH利用希望が多いが、すぐに利用できる状況でない。</li> <li>・地域生活の上では、住む場・活動の場・医療が必要。</li> <li>・居住支援の現状として、親や本人の高齢化により住む場の相談が増加。</li> <li>●不動産業者からの見解</li> <li>・高齢者のGHは増加の印象だが、障害者はあまり知られていない。地域の人へ周知されていないのではないかと。</li> <li>・安心して生活ができるシステムの構築が必要。</li> <li>・貸す側は、病気（障害）を知らないためリスクを先に考え貸しにくい。</li> <li>・身元引受人がいない、と保証会社も契約出来ない。</li> <li>●現状</li> <li>・生活困窮者の居住に関するトラブルが多い。</li> <li>・連携、情報があれば、早く対応で来たのではないかとこの思い。</li> <li>・居住支援協議会の立ち上げについて検討中。</li> <li>・生活困窮者等入居債務保証支援事業（県モデル事業）の活用</li> <li>・健全者と比べ問題・トラブルが多く、家主が入居を嫌がる。</li> <li>・残置物等の処理問題</li> <li>※住宅供給側：いかに家主に協力してもらえるか。安心して入居してもらってよいと思えるようにすることが大事。</li> <li>●対策</li> <li>・障害者への理解・啓発活動（研修会等）の実施に向け、企画案を市役所部会メンバーで検討</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●障がい者の移動問題について</li> <li>・移動の問題は、まち全体の地域課題。</li> <li>・障がい者や高齢者にとって、移動が不便なことは死活問題であり、支援者がいるか、いないかは大きい。</li> <li>・実際の公共交通現場について、支援者自身が把握不足。</li> <li>●防災啓発活動について</li> <li>・情報発信を継続・・・出水期への備え【保存版】は更新確認が必要</li> <li>・啓発手段として障がい特性に配慮した情報提供の仕方を提案</li> <li>・災害の対応手引き内の「私の避難計画」の作成は重要。</li> <li>危機管理課や福祉課の個別支援計画等作成への動きと足並みを揃えながら取り組んでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一般企業への説明や交流等、障害者雇用に向けた具体的な取り組み</li> <li>●一般校（高校）に対する情報発信（就労移行支援、就労定着支援の紹介や説明等）</li> <li>●就労支援事業所（A型・B型）との連携や困難事例への対応（検討会の開催含む）</li> <li>●コロナ禍での活動維持（オンライン研修・web会議の導入等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各相談支援専門員が日々の相談等で感じる課題（児童中心）を抽出して検討する。</li> <li>●相談等で浮かび上がってくる地域課題について、検討する必要性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●グループホーム利用希望のニーズに対しての供給の不足</li> <li>●居住支援協議会の立ち上げに向けた検討</li> <li>●セーフティネットサービスへの関わり</li> <li>●居住供給側（不動産業者側）の障害者への理解・協力促進</li> </ul>